

資料②-1 リフレーミング

リフレーミングの意味

リフレーム（再枠づけ）すること。すなわち古い枠組みに、他の枠組を与え、全体を見直す、物事の見方や捉え方を変える技法のこと。

行動や起きた出来事や関係性などの「事実」は変えずに、その文脈や意味づけを変化させる方法。

否定的に意味づけられたものを肯定的に、さり気なく変化させるような発言を行うこと。

リフレーミング30本ノック！！

NO	リフレーミング前	リフレーミング後
例	他害があります。	嫌な時・不安な時に意思表示があります。
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

資料②-2

事実を伝えるという事が、ラポール構築の上で、最大のミッションです。ラポールなくしては支援展開ができないので、スタートラインにも立てません。

今回のリフレーミング練習は、自身が用いている言葉の持つ意味と影響を理解した上で、認識した上で、”言葉”を使っているかどうかを自己覚知する為です。ご本人やご家族や関係機関や同僚や上司や部下に対して、言葉一つ一つに PDCA を設定して仕事をしているかどうかを意識化に置く為の練習の第一歩です。

事実は複数あってはいけません。

個人的な信条・信念で使ったその言葉一つ、その表現一つが、事実を捻じ曲げていないかどうかを、日々 OJT し、理論・概念理解の深めにして欲しいです。

ツールを正確に活用できるかは、そのツールの理論や概念を根本理解できているか否かだと思います。根本理解がない人がツールだけを使うと、支援がズレます。形骸化します。その人の意思・思考が入るからです。正確な知識と実践は密接につながっているという事と、その知識は繰り返しの深めと更新が必要な事であると、福祉従事者は認識しなくてはならないと考えます。従って、研修参加や施設内ケーススタディ等を繰り返し行う等のスパーク理論を、福祉施設のサービス管理責任者は実践できなくてはならないのです。